

早稲田大学 人間科学部 日本史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	問題の配列を考えると、最後の大問から解き始めた方が精神的に楽だったのではないだろうか。なにしろ一番難しい問題がIであり、しかもその冒頭に難しい小問が集まっている。ここに時間を取られすぎてしまったらあまりにももったいない。本番に備えて過去問を研究するというのは、そういうことまで考えることである。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	古代の仏教・平安時代の政治・南北朝時代	正誤問題の嵐で、しかも「適当なものが無ければ、カをマークせよ」という指定があつて消去法も使えない。このため難易度が高くなっているのだが、なかでも問1・2・4が難しい。しかしこの難しさであっても、正誤問題9問のうちたった1問しか間違えていない生徒がいることに恐れ入る。しかも日本史オタクだったわけでもなければ、通年で常に成績上位者だったわけでもないのに、である。	やや難
II	古代～近代の交通	問13のイは時期誤りタイプの誤文である。鉄道敷設法が制定されたのは1892年。やや難しいが、早稲田では82年に記述形式で出題されている。最近では成城大や明治大でも記述形式で出題されており、できれば備えておきたい用語であった。問9のE・Fはめったに出題されない用語だが、消去法で解けたらろう。	やや易
III	江戸時代の学問・思想 標準	早稲田に限らず、江戸時代の学問・思想分野が史料問題で出題されることは意外とある。このため冬期講習で史料B・Cを使った問題を演習していた。受講した人は驚喜しただろう。これを難問と感じた受験生もいると思われるが、この大問では史料が4つしかないので他の大学での出題にくらべてむしろ楽なほどである。自分の感覚とギャップがある人は今一度受験勉強というものを考え直してほしい。	標準
IV	近代の外交	I～IIIの問題にくらべて拍子抜けするほどの易しい問題であった。「適当なものが無ければ、カをマークせよ」とあるため消去法が効かないが、十分全問正解できる問題である。	易